

特定非営利活動法人グラウンドワーク三島 受賞・選定歴

【主な受賞歴】

年月	代表表彰者	表彰名
1996年3月	自治省	平成7年度「地域づくり団体自治大臣賞」
1997年11月	自治省	地方自治施行50周年記念「地方自治功労者自治大臣賞」
1997年11月	日本建築家協会	東海支部設立10周年記念大会「JIA 静岡会長賞」
2001年6月	国際ソロプチミスト駿河	駿河クラブ賞「環境貢献賞」
2001年12月	(社)中部建設協会	第2回中部の未来創造大賞「国土マネジメント部門優秀賞」
2002年11月	美しいしずおか景観推進協議会	平成14年(第15回)静岡県都市景観賞 まちづくり部門「優秀賞」(境川・清住緑地)
2004年10月	NPO法人ユニバーサル社会工学研究会	水辺のユニバーサルデザイン大賞2004「大賞」
2005年6月	(社)土木学会 景観・デザイン委員会	デザイン賞2004「最優秀賞」
2005年10月	「都市景観の日」実行委員会	平成17年度都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」
2005年11月	美しいしずおか景観推進協議会	平成17年(第18回)静岡県都市景観賞 まちづくり活動部門「優秀賞」(宮さんの川・ほたるの里)
2006年4月	朝日新聞社	第7回「明日への環境賞」
2006年10月	財団法人あしたの日本を創る協会	平成18年度あしたのまち・くらしづくり活動賞「内閣総理大臣賞」
2009年4月	フジサンケイグループ	第18回地球環境大賞「環境地域貢献賞」(秋篠宮様に御説明)
2010年10月	毎日新聞社	第16回日韓国際環境賞
2011年2月	共同通信社・地方新聞46紙	第1回地域再生大賞「大賞」
2013年11月	生物多様性アクション大賞実行委員会	生物多様性アクション大賞「審査委員賞」
2014年2月	公益財団法人日本生態系協会	全国学校・園庭ビオトープコンクール2013 支援部門「学校ビオトープ元気賞」
2014年12月	公益社団法人土木学会	市民普請大賞「グランプリ」(皇太子様に御説明)
2015年9月	公益社団法人イオン環境財団	第4回生物多様性日本アワード「優秀賞」
2015年11月	公益社団法人都市緑化機構	第26回緑の環境デザイン賞「国土交通大臣賞」
2016年6月	日本水大賞委員会・国土交通省	第18回日本水大賞「環境大臣賞」
2017年12月	公益財団法人都市緑化機構	第37回緑の都市賞「都市緑化機構会長賞」
2020年11月	国土交通省ほか各省	第4回インフラメンテナンス大賞 メンテナンスを支える活動部門「優秀賞」
2020年12月	国連ハビタット福岡本部など4団体	2020年「アジア都市景観賞」
2021年3月	中部の未来創造大賞推進協議会	第21回中部の未来創造大賞「大賞」
2021年10月	プラチナ構想ネットワーク	第9回プラチナ大賞「優秀賞」

【主な選定歴】

年月	選定者	選定名	選定対象
2006年2月	農林水産省	疏水百選	源兵衛川
2008年6月	環境省	平成の名水百選	源兵衛川
2010年2月	三島商工会議所	三島ブランド	源兵衛川
2010年3月	農林水産省	ため池百選	中郷温水池
2010年9月	三島商工会議所	三島ブランド	三島梅花藻
2013年11月	農村計画学会	農村計画優良事例顕彰	「英国発祥のグラウンドワーク活動の日本における実践と普及」
2013年12月	(公社)日本ユネスコ協会連盟	第5回「プロジェクト未来遺産」	「ドブ川化した川を市民力を結集して蛭が乱舞する清流に再生・復活」(源兵衛川)
2016年11月	国際かんがい排水委員会(ICID)	世界かんがい施設遺産	源兵衛川 Genbegawa Irrigation Canal ※三島市・中郷用水土地改良区・グラウンドワーク三島の3者連名で申請
2018年1月	世界水会議(WWC)	世界水遺産	パートナーシップによる「源兵衛川」の管理・再生システム ※中郷用水土地改良区・グラウンドワーク三島の2者連名で申請

静岡新聞

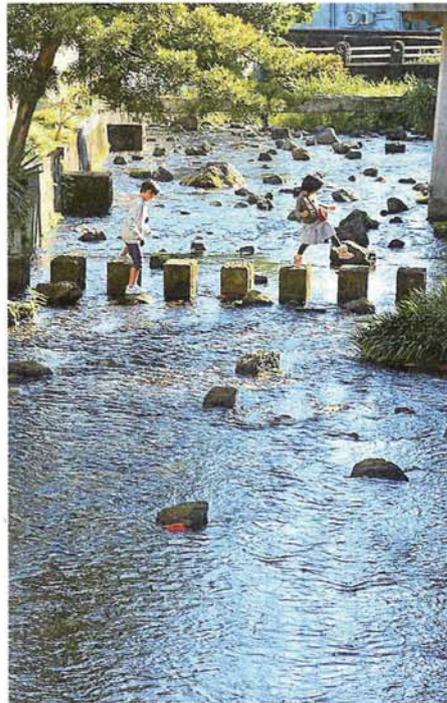
11月9日
水曜日

源兵衛川(三島) 登録決まる

世界かんがい遺産

三島市の源兵衛川が「世界かんがい施設遺産」に登録された。タ水委員会(ICID)、本部インド)が建設から100年以上を経過した歴史的価値の高い利水施設を登録する

「世界かんがい施設遺産」に登録された。タ水委員会(ICID)、本部インド)が建設から100年以上を経過した歴史的価値の高い利水施設を登録する



世界かんがい施設遺産に登録された源兵衛川＝3日、三島市内

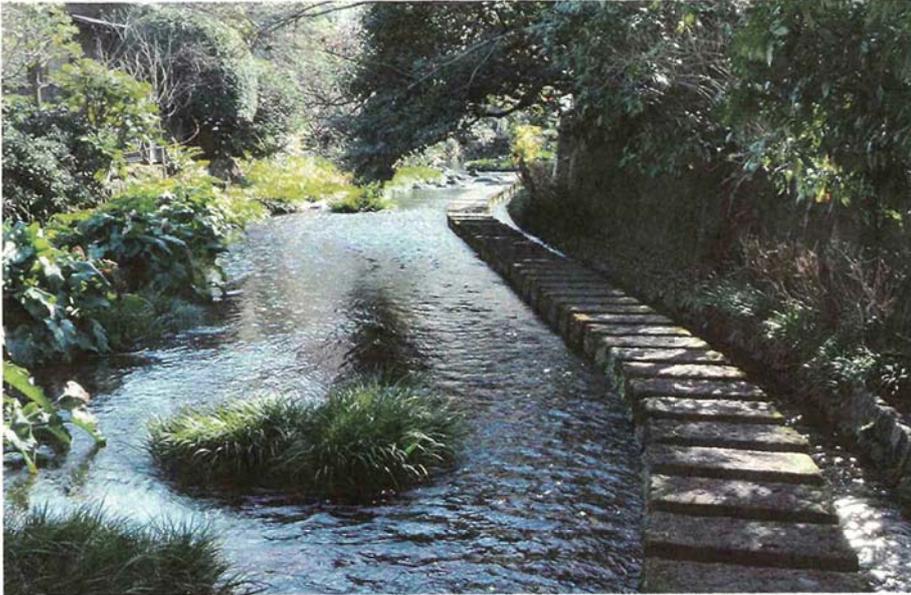
源兵衛川は16世紀ごろに稲作の拡大に向けて整備され、水深を浅くして水温の上昇を図るなどの工夫が施された。1960年代に都市化の影響で環境が悪化した。90年代に市民や行政が一体となって清流を復活させた。市と、川を管理する中郷用水土地改良区、NPO法人グラウンドワーク三島が連名で2015年に登録を申請。同年の審査は登録が保留されたが、今年改めて審査された。認定を受け豊岡武士市長は「行政による施設整備だけでなく市民の保全活動、農業者の施設維持という『協働』のたまもの。源兵衛川の価値を再認識したい」とコメントした(三島支局・河村英之)。

世界かんがい施設遺産は農業の発展に貢献し、卓越した技術によって歴史や社会的価値を有する水路などを保全する目的で14年に創設された。今回は照井(岩手県)、内川(宮城県大崎市)など13件も認定された。

三島のシンボル源兵衛川

「世界水遺産」に登録内定

三島市中心部を流れる源兵衛川が、民間シンクタンク「世界水会議」(本部・フランス)が主催する「世界水遺産」に登録されることとが内定した。同市のNPO法人「グラウンドワーク(GW)三島」が十六日、



世界水遺産の登録が内定した源兵衛川＝三島市内で

明らかにした。三月にブラジルの首都ブラジリアで開かれる「世界水フォーラム」で表彰を受ける。日本では、源兵衛川のほかに、新潟県の関川水系土地改良区が内定しているという。

「世界水遺産」は、世界水会議が二〇一六年の創立二十周年を記念し、国際機関「国際かんがい排水委員会」(本部・インド)と協力して創設した顕彰制度で、今回初めて登録が行われる。自然環境が共生してきた水管理の仕組みが対象で、百年以上の歴史や地域コミュニティの知恵や努力でつくられたものであることなどが条件となっている。

源兵衛川は、GW三島と中郷用土地改良区の連名で申請。源兵衛川は、室町

時代後期に築造された全長一・五キロのかんがい用水路で、「水の都・三島」のシンボル。高度経済成長期には企業が地下水をくみ上げたのが原因でわき水が激減し、汚染されたが、一九九〇年代に親水公園として整備され、市民らが一体となつて美しい水辺環境を再生したことで知られる。歴史や地域を挙げた取り組みが評価されたとみられる。

GW三島専務理事の渡辺豊博さん(六十)は「三島の宝が世界の宝にランクアップした証し。三島の豊かな水と緑の環境を生かした街づくりの手法が世界からも先駆的と評価された」と喜び、「今後も世界の宝に恥じない革新的な街づくりに挑戦したい」と意気込む。

(佐久間博康)

市民らの再生評価

令和2年(2020年)12月19日(土曜日)

三島の景観に国際賞

水都支える地域協働評価

富土山からの湧き水が市街地を流れる三島市の景観と環境保全活動が、国連ハビタット福岡本部などが主催する「アジア都市景観賞」に輝いた。アジアの幸せな生活環境の構築を目指す国際賞で、県内では初の受賞。かつて汚染された源兵衛川に清らかなせせらぎを復活させるなど、水都・三島を支える地域の取り組みが評価された。



松毛川で続けられている環境保全活動＝三島市

申請団体は同市のNPO法人グラウンドワーク(GW)三島。1990年代に水流の減少で汚染された源兵衛川はGW三島と官民の協働によって美しくよみがえり、現在は夏になるとホタルが飛び交うなど三島のシンボルにもなっている。GW三島は沼津との市境を流れる松毛川沿岸の土地も買収し、植林して森づくりを進めるなど永続的な管理を続けている。

同市の境川・清任緑(三島支局・金野真七)

地では今年、植生や水生生物を残しつつ展望デッキや遊歩道などを整えた湧水公園も完成。三島駅から源兵衛川を経て柿田川や狩野川へ続く散策コースをつなぐなど、県や市も水辺環境の整備に力を入れている。

GW三島の渡辺豊博専務理事は「水を守る三島の取り組みが国際的な評価を受けた。今後も地域と連携して貴重な三島の宝を守り続けたい」と語る。

令和2年(2020年)2月20日(木曜日)

松毛川沿い3000平方メートル買収

GW三島 環境整備永続的に

三島市のNPO法人グラウンドワーク(GW)三島はこのほど、沼津との市境を流れる松毛川沿いの土地約3千平方メートルを買収した。放置竹林を伐採し、樹木を植栽するなどの環境整備を永続的に進める。購入費の約500万円は、日本ナショナルトラスト協会の助成金と活動への協力者による募金で賄った。



GW三島が購入した松毛川沿いの土地。三島市御園

一元管理体制整える

GW三島によると、高低さまざまな樹木が並ぶ松毛川沿いは132種類の鳥が飛来する「野鳥のサンクチュアリ」。樹齢100年を超える巨木もある一方、管理を怠ると竹林が茂り、すぐに荒廃してしまうという。12年前から竹を伐採してチップに加工し、ヒノキなど13種類の苗木6千本を植えて1・3メートルにわたる自然堤防の整備を進めている。

高齢化が進む地権者の世代交代でいずれ管理が難しくなる可能性もあるとして、GW三島は今のうち土地を購入して一元管理体制を整える。買い取った土地は三島市側の右岸3098平方メートル。購入費500万円のうち、日本ナショナルトラスト協会から助成金

239万円を受け、残明な土地も今後購入する予定で、さらなる寄付を呼び掛けている。

松毛川沿いでは、県問い合わせはGW三島(島)電0555(9833)0136へ。

(三島支局・金野真仁)

令和2年(2020年)3月1日 (日曜日)



境川に植生類を再移植する参加者＝三島市清住町

GW三島

境川の環境保全に挑戦

植生類18種を再移植

三島市のNPO法人 グラウンドワーク三島 (GW三島) は29日、同市と清水町の境を流れる「境川」で「植生再移植ワンデイチャレンジ」を実施した。移植・保存したミシマバ イカモやミクリといった絶滅危惧の植物をはじめ、境川に生育していた貴重な植生類を再移植した。

境川の河川改修工事

今回の作業には約15

三島市のNPO法人 グラウンドワーク三島が、県、市、加和太建設、境川清住緑地愛護会などと連携して行っている「ミチゲイション工法」の一環。開発による環境への影響を軽減するための保全行為で、昨年11月に水の郷公園周辺の境川に生育する約30種類の植生類のうち、特に貴重な18種類を移植した。

GW三島の渡辺豊博専務は「もともとはコンクリートで、ヘドロがたまり汚かった。開放感のある明るい川になった。自然が復元される環境がつけられてうれしい」と話した。

2019年(令和元年)7月24日(水曜日)

ネパール地震の被災生徒ら

三島の川で草刈り体験



源兵衛川の草刈りをするネパールの子どもら＝三島市南本町で

二〇一五年四月のネパール大地震で被災した首都カトマンズ市の学校に通う十三〜十四歳の生徒四人が、二十二日から四日間の日程で三島市内を訪れている。子どもたちは国際交流団体「ネパール・日本友好協会」(紅富士太鼓)(ともに山梨県大月市)による交流事業で今月十六〜三十日の日程で来日している。三島訪問は、ネパールの復興支援に取り組む三島市のNPO法人「グラウンドワーク三島」が、環境問題などについて学んでもらおうと子どもたちを毎年招いており、今回六度目となる。

二十日は、三島梅花藻の里や源兵衛川を訪問。源兵衛川では、草刈りをしたり、アブラハヤなどの魚を捕まえたりした。ロサニ・フマガインさん(三)は「すごくきれいな街なのが三島の第一印象。住民みんなで川をきれいにすることが大切なのだと感じた」と話していた。

今後は海水浴や農作業の体験、観光施設の見学、「震災後のネパールを学ぶ」と題したシンポジウムへの参加が予定されている。

シンポジウムは二十四日午後六時〜七時半、三島市一番町の三島商工会議所である。参加無料。問い合わせは、グラウンドワーク三島(電話055(983)0136)へ。(佐久間博康)

NPO招待 環境問題など学ぶ

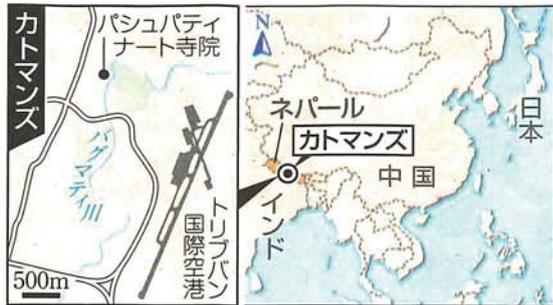
三島訪問は、ネパールの復興支援に取り組む三島市のNPO法人「グラウンドワーク三島」が、環境問題などについて学んでもらおうと子どもたちを毎年招いており、今回六度目となる。

今後は海水浴や農作業の体験、観光施設の見学、「震災後のネパールを学ぶ」と題したシンポジウムへの参加が予定されている。

「聖なる川に」 来春稼働へ

三島のNPO「ネパールに「バイオトイレ」

ネパール・カトマンズの世界文化遺産でヒンズー教の聖地「パシュパティナート寺院」を流れるバグマティ川を浄化しようと、三島市のNPO法人「グラウンドワーク（GW）三島」がバイオトイレを設置する。来春に稼働する計画だ。富士山での環境改善などで培ったノウハウをネパールに持ち込み、川の再生に貢献する。
(佐久間博康)



激しい汚濁が進み環境問題が深刻なバグマティ川。ネパール・カトマンズ市で（いずれもグラウンドワーク三島提供）

バグマティ川は、ヒンズー教徒にとって聖なる川で、死後は散骨か死体を川につけないと天国に行けないとされている。だが、参拝者や近隣住民による尿や生活排水が大量に垂れ流され、激しい汚濁が進み深刻な問題となっている。

バイオトイレは、杉のチップと微生物で汚物を二酸化炭素（CO₂）と水に分解する仕組みだ。GW三島は富士山に設置し、一九九〇年代にし尿やトイレットペーパーが山肌へはびりつく「白い川」の問題解決に尽力した。三島市の源兵衛川の再生にも取り組んだ。

バグマティ川にバイオトイレを設置する計画は二〇一五年、GW三島の活動に注目したネパールの関係者から要請があり、動き出した。だが同年四月二十五日のネパール大地震の影響で延期に。GW三島は被災者支援のため、同年十一月に山間部の避難所にバイオトイレを設置し、避難所の環境改善に一役買った。

大地震から四年が経過し復興が進みつつあることから、今回、ネパールの関係者から再びバグマティ川へ

富士山美化ノウハウ活用



バイオトイレ設置の段取りを確認するグラウンドワーク三島やネパール・日本友好協会、ネパール関係者＝三島市内で

の設置の打診があった。

設置予定のバイオトイレは一日当たり八百人分のし尿を処理できる分解槽一基と仮設トイレ十基。七月からネパールで現地調査や測量、政府や寺院といった関係機関との調整をした上で、十一月に日本からバイオトイレを船で運搬する。

来年二月にネパールに着後、設置工事を経て、同年三月から稼働させる。これに合わせて、川に重機を入れ、たい積したヘドロを取り除く作業も行う。

今月九日、三島市内でGW三島、ネパール・日本友

好協会、ネパールの関係者が打ち合わせを行い、バイオトイレ設置に向けた段取りを確認した。GW三島の

渡辺豊博専務理事（左）は「これまで培ってきたノウハウを生かし汚れた川を清流に変えたい」と意気込む。ネパール側のまとめ役を務めるバグマティカレッジ理事のアスミン・シユトラさん（右）は「富士山のし尿問題を解決したバイオトイレを設置することを通して、ネパールでの水質改善

・水辺再生の適切な解決策が見つかることを期待している」と語った。